

令和8年度 貝毒プランクトン出現状況（7月16日現在）

男鹿半島戸賀湾で貝毒の原因とされるプランクトン（渦鞭毛藻 *Dinophysis*属）の出現状況を調査しています（4月から8月にかけて計12回）。

今期10回目の7月16日の調査では、その他の*Dinophysis*属として、*D. rotundata*と*D. rudgei*、*D. mitra*、*D. caudata*が出現しました。

7月13日に採捕したイガイの下痢性貝毒の検査結果は「検出せず」となっています。

調査月日	水深	水温 (°C)	貝毒プランクトン出現量 (細胞数/L)			下痢性貝毒検査 (イガイ)	
			<i>D. fortii</i>	<i>D. acuminata</i>	その他 <i>Dinophysis</i> 属	検体採取日	試験結果 (mgOA当量/kg)
①	4/2	5 m	9.9	3	21		
		10m	10.0	12	18		
		20m	9.9	3	10		
②	4/10	5 m	10.9	32	35		
		10m	10.8	60	7		
		20m	10.6	70	7		
③	4/23	5 m	12.8	95	14		
		10m	12.4	56	4		
		20m	12.3	56	18		
④	5/8	5 m	13.7	24	3		
		10m	13.8	21	0		
		20m	12.8	75	9		
⑤	5/13	5 m	15.5	18	3		
		10m	14.1	42	3		
		20m	13.9	96	3		
⑥	5/22	5 m	15.9	3	0		
		10m	15.1	0	0		
		20m	13.8	53	7		
⑦	6/2	5 m	17.1	3	0		
		10m	17	0	0		
		20m	17	0	0		
⑧	6/16	5 m	19.9	0	0	6/15	検出せず
		10m	19.3	0	3	6/23 6/29	検出せず 検出せず
		20m	17.4	3	0		
⑨	6/30	5 m	21.8	0	0		
		10m	21.4	0	0		
		20m	20.8	0	0		
⑩	7/16	5 m	25.2	0	21	7/6	検出せず
		10m	24.9	0	0	7/13	検出せず
		20m	23.4	0	3		
⑪		5 m					
		10m					
		20m					
⑫		5 m					
		10m					
		20m					

* 貝毒プランクトンの警戒値は*Dinophysis fortii*については200細胞/L（海水1リットルあたり200細胞）以上とされています（安本 1993）

* 下痢性貝毒は、0.16mgOA当量/kgを超えると出荷自主規制するように定められています。